

社会資本総合整備計画

白 浜 町 街 な み 環 境 整 備 事 業 計 画

～観光都市の中心地として、住民と観光客が白浜の魅力を実感できるまちづくり～

和歌山県 白浜町

令和7年12月

社会資本総合整備計画

社会資本整備総合交付金

令和07年12月17日

計画の名称	白浜町街なみ環境整備事業計画～観光都市の中心地として、住民と観光客が白浜の魅力を実感できるまちづくり～													
計画の期間	令和08年度～令和12年度（5年間）											重点配分対象の該当		
交付対象	白浜町													
計画の目標	白良浜や白浜温泉などの地域資源を活用、観光客のニーズへの的確な対応により、商業地としての質を向上させる。 サテライトオフィスを活用したワーケーションなどの新たな働き方に対応した企業誘致を促進する。 住民や事業者、行政が一体となることにより、地域の誇りを持てるような官民連携のまちづくりを進める。													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		160	A	160	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R8当初	R10末	R12末
1	白浜町を訪れる観光客数の増加を目指す。 観光入込客数を集計する。	3007178人/年	3090000人/年	3150000人/年
2	白浜町における観光消費額の増加を目指す。 南紀白浜観光協会が実施するアンケートにより、回答者1人当たりの観光消費額の平均値から評価する。	49007円/人	52000円/人	54000円/人
3	白浜銀座商店街を回遊する町民や観光客の増加を目指す。 まちなか総合案内所の訪問者数を集計する。	6087人/年	6900人/年	7500人/年
4	民間事業者による空き店舗などの活用を促進を目指す。 町単独事業として実施している「まちなかにぎわい創出事業補助金」の交付件数を集計する。	0件	3件	5件

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

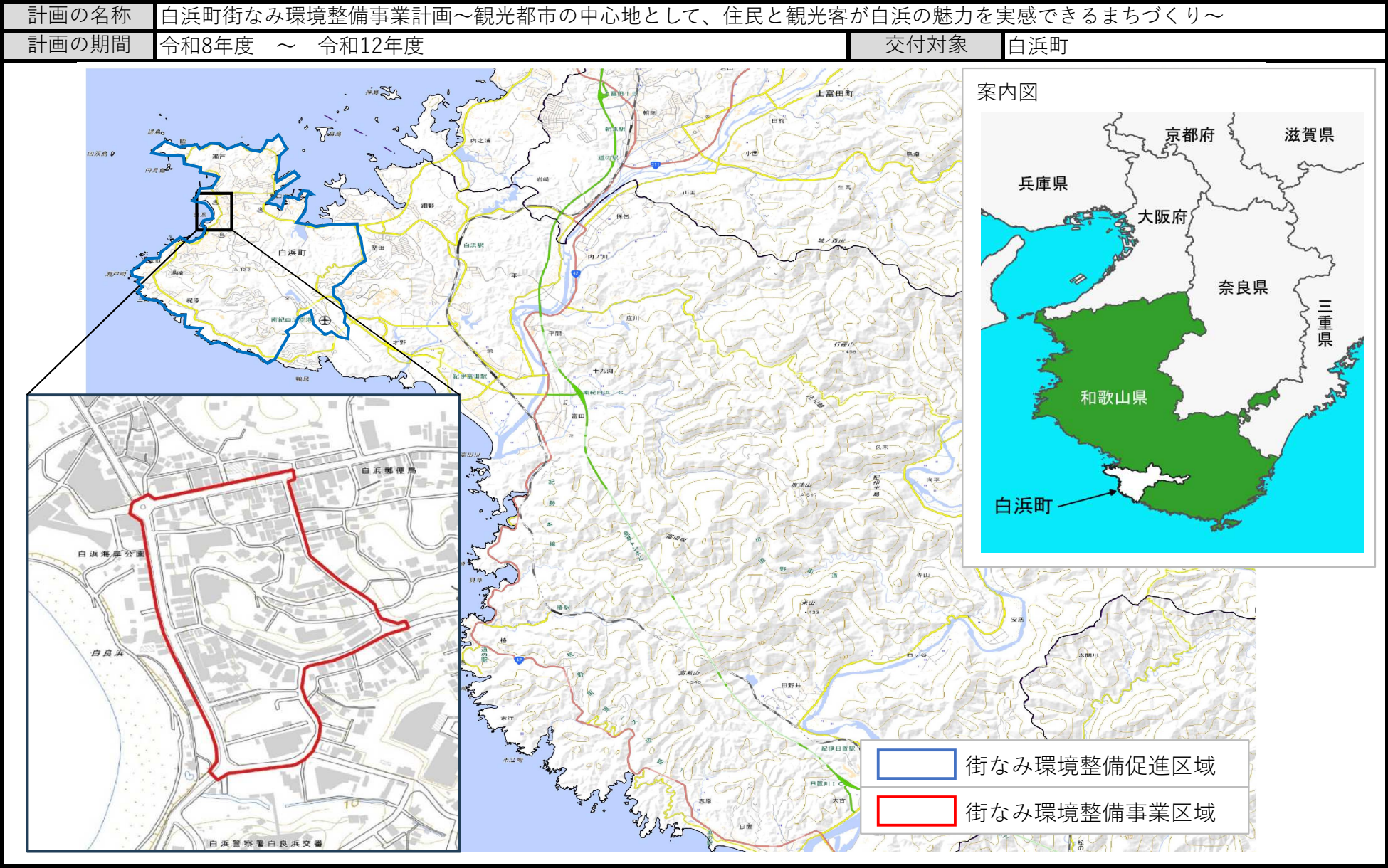
A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
住環境整備事業	A16-001	住宅	一般	白浜町	直接	白浜町	-	-	街なみ環境整備事業	整備方針・事業計画策定、道 路美装化、交流施設改修	白浜地区	■	■	■	■	■	150		未策定	
	A16-002	住宅	一般	白浜町	間接	民間	-	-	街なみ環境整備事業	修景施設整備	白浜地区					■	10		未策定	
												小計						160		
											合計						160			

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R08				
配分額 (a)	0				
計画別流用増 減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	0				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	0				
翌年度繰越額 (f)	0				
うち未契約繰越額(g)	0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

(参考図面)



街並み環境整備方針説明書

都道府県名		和歌山県	ふりがな 市町村名	しらはまちょう 白浜町	ふりがな 区域名	しらはまちく 白浜地区
地区 の 現 況	地区の概況		白浜町は和歌山県の南部に位置し、大きくは紀伊水道に面した半島地域、富田川下流域及び日置川流域に分かれます。 面積は200.99平方キロメートルで、森林が全体の約81％を占め、北西の半島部に市街地が形成され、南部では海岸地域まで山地がせまり、海岸、河川流域、谷間部に集落が点在しています。平成27年度の国勢調査における人口は、21,533人です。 町域には、吉野熊野国立公園、大塔日置川県立自然公園が含まれるなど、海・山・川にわたる豊かな自然環境に恵まれた地域です。 白浜町の内、白浜地域とよばれる地域は、町内宿泊施設の9割以上が立地する観光地で、14,000人を超える宿泊客をお招きすることができます。 白浜地域の内、白浜地区と呼ばれる地区は、町の観光シンボルである年間300万人の方々を訪れる「白良浜」を中心とした地区で、夏場を中心に世界中から観光客が訪れる他、露天風呂や足湯といった温泉施設も数多く立地しています。			
	道路の現況		幹線道路は、国道42号が都市計画区域の東側に位置する準都市計画区域内を、二級河川「富田川（とんだがわ）」に沿って、南北に通っており、県道31号（田辺白浜線）が、JR白浜駅を経由して、白浜地区とまで繋がっています。近畿自動車道南部白浜線も同じく富田川に沿って通っており、白浜インターチェンジと白浜地区は、南紀白浜空港を挟んで、白浜空港フラワーライン線等の都市計画道路によって結ばれています。			
	公園等の現況		本町の都市計画公園は、街区公園6ヶ所、総合公園3ヶ所、運動公園1ヶ所、風致公園2ヶ所、特殊公園1ヶ所の合計13ヶ所、93.65haが都市計画決定されています。 「白良浜」については、都市公園「白浜海岸公園」内にあり、白浜町都市公園条例によって、一定の行為が禁止、或いは許可行為とされています。			
	地区住民のまちづくり活動の概要		白浜地区では、4つの商店会が共同で、地区内の足湯（常設の他、仮設も設置）を無料開放する「足湯まつり」を開催するなど、地域を挙げて観光客をおもてなしする機運があります。 「銀座商店街」では、車両を通行止めにして行われた「黄昏れ市」が、観光客や地元の住民で賑わうなど、これまでも様々なまちづくり活動が行われています。			
地区 の 整 備 に 関 する 基 本 方 針	整備の目標		本町のシンボルでもある「白良浜」を擁する白浜地区は、基幹産業の1つである観光業の拠点エリアとして、多くの商店会や宿泊施設を擁し、夏季を中心に、世界中から多くの観光客が訪れているものの、近年、観光地間の競争が激しくなっていることや、地域社会の維持・存続が喫緊の課題となっていることから、これまで以上に活性化に取り組む必要があります。 美しい浜辺を中心にした開放的な風景や南紀白浜らしさを感じさせる建物、温泉、足湯等の地域資源を活用するとともに、歩いて楽しめる空間整備や町民・観光客が交流・滞在できる場の創出等により、本町の顔となる魅力ある中心市街地を形成し、白浜町全体の活性化を図ることを目的とします。			
	整備の時期		令和8年度～令和12年度（5年間）			
	地区 に 関 する 基 本 的 事 業 の 整 備	通路等	エリア内の商店会については、路線ごとに分かれており、独自に組織・運営されている。 組織ごとの課題やこれまでの取組を踏まえつつ、舗装の美装化や案内板の整備などにより、エリア全体の回遊性を高めます。			
		小公園等	本町固有の一般開放施設である「足湯」について、町民や観光客の交流促進施設としての再整備を行います。			
		その他	白浜温泉街活性化構想推進計画、都市計画マスタープラン、景観計画等との整合を図りながら、統一感のある修景を図ります。			
	基 本 的 事 業 の 整 備	住宅	エリア全体で統一感のある良好な街なみ景観の形成を図るため、区域内に存する住居や店舗について、修景施設整備を行います。			
		敷地				
	その他の事項		当地区は、景観計画区域に指定されており、人々の暮らしや地域の活動がつくる景観の魅力の醸成が求められています。地区の特性に応じた施設整備などにより、街なかにおける周遊性の向上や、町民や観光客が本町特有の風致を感じられるような整備を本事業により推進していく。			

白浜地区（和歌山県白浜町）

【街なみ環境整備事業】

① 案内図・位置図

位置図



整備地区計画図

凡例

-  街なみ環境整備事業区域
-  地区施設（小公園、緑地）
（交流施設改修）
-  その他大臣（道路美装化）

●整備方針・事業計画策定

●修景施設整備（民間）

●その他大臣（道路美装化）
白浜銀座通

●地区施設（小公園、緑地）
（交流施設改修）
柳橋足湯



0 50 100 m